

2006

H18

第 14 回 あま指国家試験

(あま指 14) 医療概論

1~2

あ 14-1 インフォームド・コンセントで誤っているのはどれか。

1. 医療上の説明を受ける。
2. 医療内容を選択できる。
3. アルマ・アタ宣言に述べられている。
4. 治療を受けることを拒否することが出来る。

あ 14-2 被用者保険でないのはどれか。

1. 健康保険
2. 船員保険
3. 共済組合
4. 国民健康保険

(あま指 14) 衛生学公衆衛生学

3~10

あ 14-3 集団検診を行うための条件として適切でない記述はどれか。

1. 検査法が安全である。
2. 当該疾患の罹患率が低い。
3. 早期治療が出来る。
4. 検査の感度が高い。

あ 14-4 カドミウム汚染が原因で起きた公害事件はどれか。

1. 新潟水俣訴訟
2. 四日市公害訴訟
3. イタイイタイ病訴訟
4. 宮崎土呂久訴訟

あ 14-5 ウイルス疾患はどれか。

1. 風疹
2. 破傷風
3. コレラ
4. 発疹チフス

あ 14-6 生活習慣病でないのはどれか。

1. 型糖尿病
2. 高血圧症
3. 痛風
4. クローン病

あ 14-7 潜伏期が最も長いのはどれか。

1. コレラ
2. エイズ
3. インフルエンザ
4. 麻疹

あ 14-8 感染症流行で疫学の 3 大要因でないのはどれか。

1. 感染源
2. 感染経路
3. 感染予防
4. 感受性

## (あマ指 14) 衛生学公衆衛生学

3 ~ 10

あ 14-9 我が国において高齢者が寝たきりになる原因として最も多いのはどれか。

1. 骨粗鬆症
2. 脳卒中
3. 交通事故
4. 心筋梗塞

あ 14-10 人口動態統計で扱うのはどれか。

1. 人口
2. 病院数
3. 出生数
4. 患者数

## (あマ指 14) 関係法規

11 ~ 14

あ 14-11 あん摩マッサージ指圧師、はり師きゅう師等に関する法律で医師の同意を得て行える行為はどれか。

1. 診断書の交付
2. 脱臼への施術
3. 外科手術
4. 薬品の投与

あ 14-12 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律で施術所の届出事項でないのはどれか。

1. 開設の年月日
2. 開設者の氏名
3. 施術者の性別
4. 開設の場所

あ 14-13 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師等に関する法律で広告できるのはどれか。

1. 施術方法
2. 新たに導入した機器
3. 施術者の出身校
4. 夜間における施術

あ 14-14 厚生労働大臣が認可するのはどれか。

1. 病院
2. 診療所
3. 地域医療支援病院
4. 特定機能病院

## (あマ指 14) 解剖学

15 ~ 36

あ 14-15 筋層が横紋筋からなるのはどれか。

1. 心臓
2. 小腸
3. 子宮
4. 膀胱

あ 14-16 後頸三角の形成に関与しないのはどれか。

1. 鎖骨
2. 肩甲骨
3. 胸鎖乳突筋
4. 僧帽筋

あ 14-17 後頭蓋窩にみられるのはどれか。

1. トルコ鞍
2. 正円孔
3. 内耳孔
4. 破裂孔

あ 14-18 手根骨のうち遠位列にあるのはどれか。

1. 月状骨
2. 豆状骨
3. 有鉤骨
4. 三角骨

あ 14-19 距骨と関節をつくらないのはどれか。

1. 脛骨
2. 立方骨
3. 踵骨
4. 腓骨

あ 14-20 上腕骨小結節稜に付着するのはどれか。

1. 広背筋
2. 僧帽筋
3. 肩甲挙筋
4. 小菱形筋

あ 14-21 舌筋の運動を支配する神経はどれか。

1. 舌神経
2. 舌咽神経
3. 迷走神経
4. 舌下神経

あ 14-22 大腸にのみみられるのはどれか。

1. 腸腺
2. 腸間膜
3. 腹膜垂
4. 輪状ヒダ

あ 14-23 肝門を出入りしないのはどれか。

1. 固有肝動脈
2. 肝静脈
3. 門脈
4. 肝管

あ 14-24 副鼻腔とその開口部で正しい組合せはどれか。

1. 前頭洞            中鼻道
2. 上顎洞            上鼻道
3. 篩骨洞            下鼻道
4. 蝶形骨洞        中鼻道

あ 14-25 膀胱について誤っている記述はどれか。

1. 男性では直腸の前方に位置する。
2. 女性では子宮の前方に位置する。
3. 後腹膜器官である。
4. 粘膜の上皮は移行上皮である。

あ 14-26 尿道に開口しないのはどれか。

1. 前立腺
2. 射精管
3. 大前庭腺
4. 尿道球腺

あ 14-27 外頸動脈の枝でないのはどれか。

1. 浅側頭動脈
2. 眼動脈
3. 顎動脈
4. 舌動脈

あ 14-28 クモ膜下腔に直接通じているのはどれか。

1. 側脳室
2. 第3脳室
3. 第4脳室
4. 中脳水道

あ 14-29 痛覚の伝導路と関係ないのはどれか。

1. 脊髄神経
2. 脊髄前角
3. 脊髄後角
4. 視床

あ 14-30 横隔神経を出す神経叢はどれか。

1. 頸神経叢
2. 腕神経叢
3. 腰神経叢
4. 仙骨神経叢

あ 14-31 尺骨神経支配の筋はどれか。

1. 尺側手根屈筋
2. 橈側手根屈筋
3. 浅指屈筋
4. 長母指屈筋

あ 14-32 下殿神経支配の筋はどれか。

1. 梨状筋
2. 小殿筋
3. 中殿筋
4. 大殿筋

あ 14-33 副交感神経線維を含む脊髄神経はどれか。

1. 頸神経
2. 胸神経
3. 腰神経
4. 仙骨神経

あ 14-34 眼球で硝子体に接するのはどれか。

1. 結膜
2. 網膜
3. 強膜
4. 脈絡膜

## (あマ指 14) 解剖学

15 ~ 36

あ 14-35 聴覚器と関係ないのはどれか。

1. 耳神経節
2. 蝸牛神経
3. 鼓室
4. ラセン器

あ 14-36 皮膚の構造のうち大量の膠原線維を含むのはどれか。

1. 爪
2. 角質層
3. 皮脂腺
4. 真皮

## (あマ指 14) 生理学

37 ~ 53

あ 14-37 体重 60kg のヒトの細胞内液量で正しいのはどれか。

1. 36
2. 24
3. 9
4. 3

あ 14-38 血漿アルブミンと関連が深いのはどれか。

1. 血液凝固
2. 免疫反応
3. 膠質浸透圧
4. 二酸化炭素の運搬

あ 14-39 平均血圧が最も低いのはどれか。

1. 細動脈
2. 毛細血管
3. 細静脈
4. 大静脈

あ 14-40 深い吸気に関与しないのはどれか。

1. 横隔膜
2. 外肋間筋
3. 胸鎖乳突筋
4. 椎前筋

あ 14-41 迷走神経が関与しないのはどれか。

1. 胃の収縮
2. 膵液の分泌
3. 腸液の分泌
4. 直腸の収縮

あ 14-42 正常体温で気温 38 °C の時の主な放熱はどれか。

1. 発汗
2. 対流
3. 放射
4. 伝導

あ 14-43 腎臓でブドウ糖が再吸収される部位はどれか。

1. 糸球体
2. ボーマン嚢
3. 尿細管
4. 集合管

あ 14-44 血液中のカルシウム濃度調節に関与するのはどれか。

1. パソプレッシン
2. パラソルモン
3. グルカゴン
4. オキシトシン

あ 14-45 女性の性周期でプロゲステロンの血中濃度が高まる時期はどれか。

1. 増殖期
2. 排卵期
3. 分泌期
4. 月経期

あ 14-46 神経線維における興奮伝導の三原則に含まれないのはどれか。

1. 跳躍伝導
2. 不減衰伝導
3. 絶縁性伝導
4. 両方向性伝導

あ 14-47 脊髄内伝導路と働きとの組合せで誤っているのはどれか。

1. 脊髄視床路 感覚
2. 脊髄小脳路 姿勢調節
3. 皮質脊髄路 随意運動
4. 後索路 不随意運動

あ 14-48 交感神経の作用でないのはどれか。

1. 血管収縮
2. 心拍数増加
3. 心収縮力増大
4. 気管支拡張

あ 14-49 骨格筋について誤っている記述はどれか。

1. 無酸素状態でもエネルギー産生ができる。
2. クレアチンリン酸はエネルギー源である。
3. 収縮に伴い熱が発生する。
4. 弛緩の過程にエネルギーは不要である。

あ 14-50 一次運動野において最も広い身体部位支配領域はどれか。

1. 顔面
2. 上腕
3. 体幹
4. 下腿

あ 14-51 日中に比べ夜間に血中濃度が高くなるホルモンはどれか。

1. アルドステロン
2. メラトニン
3. カルシトニン
4. アドレナリン

## (あマ指 14) 生理学

37 ~ 53

あ 14-52 最も順応しにくい感覚はどれか。

1. 嗅覚
2. 触覚
3. 痛覚
4. 冷覚

あ 14-53 形質細胞に分化するのはどれか。

1. T細胞
2. B細胞
3. NK細胞
4. マクロファージ

## (あマ指 14) 病理学

54 ~ 60

あ 14-54 病因のうち内因に属するのはどれか。

1. 遺伝的要因
2. 社会環境
3. 感染微生物
4. 栄養物質

あ 14-55 脂質代謝異常に起因する疾患はどれか。

1. 粥状動脈硬化症
2. 糖尿病
3. アミロイドーシス
4. 痛風

あ 14-56 日和見感染症として誤っているのはどれか。

1. カリニ肺炎
2. 食道カンジダ症
3. B型肝炎
4. サイトメガロウイルス感染症

あ 14-57 組織内異物の処理法として誤っているのはどれか。

1. 排除
2. 器質化
3. 被包
4. 再生

あ 14-58 自己免疫疾患と最も関連の低いのはどれか。

1. 全身性エリテマトーデス
2. 関節リウマチ
3. 骨軟化症
4. 多発性筋炎

あ 14-59 アレルギー反応の分類とその関連疾患との組合せで誤っているのはどれか。

1. Ⅰ型アレルギー      アレルギー性鼻炎
2. Ⅱ型アレルギー      グッドパスチャー症候群
3. Ⅲ型アレルギー      急性糸球体腎炎
4. Ⅳ型アレルギー      気管支喘息

あ 14-60 拒絶反応が最も起こりやすいのはどれか。

1. 自家移植    2. 同系移植    3. 同種移植    4. 異種移植

あ 14-61 神経麻痺と関係しない変形はどれか。

1. 猿手
2. 鷺手
3. 下垂手
4. デュプトレン拘縮

あ 14-62 疾患と症状との組合せで誤っているのはどれか。

1. 慢性膵炎            背部痛
2. 肝硬変            クモ状血管腫
3. 胃潰瘍            喀血
4. クローン病        下痢

あ 14-63 打診音でないのはどれか。

1. 清音
2. 濁音
3. 鼓音
4. ラ音

あ 14-64 膝関節障害の検査法でないのはどれか。

1. パトリックテスト
2. ラックマンテスト
3. マックマーレテスト
4. アプレイテスト

あ 14-65 病巣と神経学的所見との組合せで正しいのはどれか。

1. 錐体路            足クローヌス
2. 小脳            深部腱反射亢進
3. 脊髄神経根        手袋靴下感覚障害
4. 視床            認知障害

あ 14-66 上肢の病的反射はどれか。

1. チャドック反射
2. ワルテンベルグ反射
3. オッペンハイム反射
4. バビンスキー反射

あ 14-67 自律神経障害でみられないのはどれか。

1. 起立性低血圧
2. 視野障害
3. 発汗障害
4. 便秘

あ 14-68 眼瞼下垂をきたさないのはどれか。

1. 重症筋無力症
2. 動眼神経麻痺
3. 外転神経麻痺
4. ホルネル症候群

あ 14-69 低比重尿をきたすのはどれか。

1. 発熱
2. うっ血性心不全
3. 脱水症
4. 尿崩症



あ 14-70 心房細動の合併症はどれか。

1. 脳塞栓
2. 脳血栓
3. 脳出血
4. 脳腫瘍

あ 14-71 一般的に眼圧上昇がみられないのはどれか。

1. ブドウ膜炎
2. 緑内障
3. 網膜色素変性症
4. 長期のステロイド点眼

あ 14-72 心肺蘇生法の手順として最初に行うのはどれか。

1. 心マッサージ
2. 気道確保
3. 血管確保
4. 人工呼吸

あ 14-73 「運動習慣のない55歳女性。身長160cm、体重85kg。空腹時血糖値は180mg/dl。HbA1c8.3%。多尿が出現した。」多尿の機序として最も適切なものはどれか。

1. バゾプレッシン分泌の低下
2. アルドステロン分泌の低下
3. 腎血流量増加
4. 浸透圧利尿

あ 14-74 「運動習慣のない55歳女性。身長160cm、体重85kg。空腹時血糖値は180mg/dl。HbA1c8.3%。多尿が出現した。」血糖値をさげるホルモンはどれか。

1. サイロキシン
2. インスリン
3. グルカゴン
4. コルチゾール

あ 14-75 合併症として最も関連の低いのはどれか。

1. 壊疽
2. 網膜症
3. 胃潰瘍
4. 腎不全

あ 14-76 破傷風について誤っている記述はどれか。

1. 病原体は土壌中に存在する。
2. 外傷後の発症が多い。
3. 内毒素により発症する。
4. 筋肉のけいれんが特徴である。

あ 14-77 疾患と症状との組合せで適切でないのはどれか。

- |           |       |
|-----------|-------|
| 1. 十二指腸潰瘍 | 心窩部痛  |
| 2. 急性虫垂炎  | 右下腹部痛 |
| 3. 胆石症    | 左肩放散痛 |
| 4. 汎発性腹膜炎 | 反跳痛   |

あ 14-78 肺結核について正しい記述はどれか。

1. 接触感染が多い。
2. 感染後の発病率は60%以上である。
3. 初発症状は高熱が多い。
4. 診断には喀痰培養が有用である。

あ 14-79 閉塞性換気障害をきたすのはどれか。

1. 肺気腫
2. 肺線維症
3. 気胸
4. 急性気管支炎

あ 14-80 気管支喘息の症状として適切でないのはどれか。

1. 咳嗽
2. 吸気の延長
3. 起坐呼吸
4. 喘鳴

あ 14-81 慢性腎不全の原因として最も多いのはどれか。

1. 糖尿病
2. 腎硬化症
3. 嚢胞腎
4. 痛風

あ 14-82 基礎代謝率が亢進するのはどれか。

1. シーハン症候群
2. 巨人症
3. 褐色細胞腫
4. クッシング症候群

あ 14-83 いわゆる五十肩について誤っている記述はどれか。

1. 結帯動作が困難である。
2. 夜間痛がある。
3. 40～60歳代に好発する。
4. 治療にデゾー包帯を使う。

あ 14-84 小児の肘関節周辺骨折について誤っている記述はどれか。

1. 上腕骨顆上骨折の頻度が高い。
2. 上腕骨外顆骨折では手術の適応が多い。
3. フォルクマン拘縮は重篤な合併症である。
4. 肘関節拘縮には強力に変形矯正を行う。

あ 14-85 右心室肥大をきたすのはどれか。

1. 心内膜症
2. 大動脈弁狭窄症
3. 狭心症
4. 肺性心

あ 14-86 貧血について誤っている組合せはどれか。

1. 悪性貧血                    ビタミン B12 欠乏
2. 鉄欠乏性貧血                総鉄結合能低下
3. 溶血性貧血                   黄疸
4. 再生不良性貧血               骨髄の造血細胞減少

あ 14-87 脾腫をきたす疾患はどれか。

1. 血友病
2. 溶血性貧血
3. 鉄欠乏性貧血
4. 再生不良性貧血

あ 14-88 神経疾患と症状との組合せで正しいのはどれか。

- |                |        |
|----------------|--------|
| 1. 髄膜炎         | 項部硬直   |
| 2. 進行性筋ジストロフィー | 自律神経障害 |
| 3. 脊髄空洞症       | 眼球運動障害 |
| 4. ウイルソン病      | 視神経萎縮  |

あ 14-89 筋萎縮性側索硬化症で最も認めにくいのはどれか。

1. 膀胱直腸障害
2. 構音障害
3. 舌萎縮
4. 筋線維束攣縮

あ 14-90 ギラン・バレー症候群について誤っている記述はどれか。

1. 脱髄性疾患である。
2. 四肢の脱力をきたす。
3. 深部腱反射は低下する。
4. 寛解と再燃を繰り返す。

あ 14-91 関節リウマチの症状でないのはどれか。

1. 朝のこわばり
2. 蝶形紅斑
3. 対称性の関節腫脹
4. 皮下結節

あ 14-92 全身麻酔はどれか。

1. 脊髄麻酔
2. 静脈麻酔
3. 表面麻酔
4. 伝達麻酔

あ 14-93 視神経炎の原因でないのはどれか。

1. 多発性硬化症
2. ビタミン B1 欠乏症
3. 高脂血症
4. アルコール中毒

あ 14-94 心身症と関連の少ないのはどれか。

1. 慢性膵炎
2. 消化性潰瘍
3. 胆道ジスキネジア
4. 過敏性腸症候群

あ 14-95 リハビリテーションの理念として誤っている記述はどれか。

1. 障害者も健常者も一緒に社会で生活する。
2. 障害者が日常生活で必要に応じて健常者の助けを借りる。
3. 障害者と高齢者では人間としての社会的価値は異なる。
4. 障害者の自己決定権は尊重される。

あ 14-96 関節運動と最大可動域との組合せで正しいのはどれか。

1. 肩関節外旋 45度
2. 前腕回内 10度
3. 股関節外旋 45度
4. 足関節屈曲（底屈） 20度

あ 14-97 病態と対応する義肢装具との組合せで誤っているのはどれか。

1. 正中神経麻痺 対立装具
2. 大腿切断 PTB 義足
3. 総腓骨神経麻痺 短下肢装具
4. 変形性膝関節症 足底装具

あ 14-98 車いすのパーツの名称として誤っているのはどれか。

1. シレジアバンド
2. ハンドリム
3. フットレスト
4. 大車輪

あ 14-99 健常成人の立位姿勢で側方からみて重心線が通らないのはどれか。

1. 耳垂
2. 胸骨
3. 大転子
4. 膝関節前面

あ 14-100 正常歩行の立脚中期にみられないのはどれか。

1. 骨盤の傾斜
2. 膝関節屈曲
3. 足関節屈曲（底屈）
4. 下腿三頭筋の収縮

あ 14-101 脳卒中急性期にみられない症状はどれか。

1. 肩手症候群
2. 嚥下障害
3. 半側空間無視
4. 運動性失語

あ 14-102 呼吸器疾患のリハビリテーションで誤っているのはどれか。

1. 速い呼吸を行わせる
2. 腹式呼吸を指導する
3. 呼気時に口をすぼめる
4. 胸郭のストレッチを行う

あ 14-103 訓練法と疾患との組合せで正しいのはどれか。

1. ボバース 五十肩
2. フレンケル 脳性麻痺
3. コッドマン 運動失調
4. ウイリアムズ 腰痛症

## (あマ指 14) リハビリテーション医学

95 ~ 104

あ 14-104 大腿骨頸部骨折に対する人工骨頭置換術後のリハビリテーションで誤っているのはどれか。

1. 臥床中の排痰訓練
2. 両下肢の関節可動域訓練
3. 座位からの立ち上がり訓練
4. 患部への極超短波療法

## (あマ指 14) 東洋医学概論

105 ~ 114

あ 14-105 五行色体の五味で金に属するのはどれか。

1. 酸
2. 苦
3. 甘
4. 辛

あ 14-106 五臓の相生関係で誤っている記述はどれか。

1. 肝は心をたすける
2. 心は肺をたすける
3. 肺は腎をたすける
4. 腎は肝をたすける

あ 14-107 気的作用で物質をエネルギーに変えるのはどれか。

1. 気化作用
2. 固撮作用
3. 推动作用
4. 温煦作用

あ 14-108 後天の精を生成する臓で中心となるのはどれか。

1. 肝
2. 心
3. 脾
4. 腎

あ 14-109 五臓と五精との組合せで正しいのはどれか。

1. 肝 魄
2. 心 精
3. 脾 意
4. 肺 魂

あ 14-110 五臓について誤っている記述はどれか。

1. 肝は精を蔵する
2. 心は血脈を主る
3. 肺は水道を通調する
4. 腎は二陰に開竅する

あ 14-111 腹診において腹部中央で診る臓はどれか。

1. 肝
2. 脾
3. 肺
4. 腎

## (あマ指 14) 東洋医学概論

105 ~ 114

あ 14-112 切経で虚の反応はどれか。

1. 拒按
2. 緊張
3. 熱感
4. 不仁

あ 14-113 不内外因によるものはどれか。

1. 寝冷えをして下痢をする。
2. 食べ過ぎて上腹部がはる。
3. 炎天下に運動し熱がでる。
4. 仕事がうまくいかず気がめいる。

あ 14-114 腎の病証でみられないのはどれか。

1. 腰痛
2. 難聴
3. 頭痛
4. 頻尿

## (あマ指 14) 経絡経穴概論

115 ~ 124

あ 14-115 俞穴と募穴との組合せで誤っているのはどれか。

1. 肝俞          章門
2. 胆俞          日月
3. 厥陰俞        膻中
4. 三焦俞        石門

あ 14-116 原穴でないのはどれか。

1. 陽池
2. 大陵
3. 偏歷
4. 腕骨

あ 14-117 腎経に属する経穴はどれか。

1. 承扶
2. 犢鼻
3. 築賓
4. 太白

あ 14-118 奇経八脈のうち十四経脈に含まれるのはどれか。

1. 陽蹻脈
2. 衝脈
3. 任脈
4. 帶脈

あ 14-119 眼窩下孔部にある経穴はどれか。

1. 四白
2. 下関
3. 睛明
4. 瞳子髎

あ 14-120 取穴法で誤っている記述はどれか。

1. 肩外兪は第 1 胸椎棘突起の下の外方 3 寸に取る。
2. 膏肓は第 4 胸椎棘突起の下の外方 3 寸に取る。
3. 肩貞は腋窩横紋後端の上方 1 寸に取る。
4. 臑会は肩峰外端の下方 2 寸に取る。

あ 14-121 経穴と筋肉との組合せで誤っているのはどれか。

1. 肩井 僧帽筋
2. 天枢 腹直筋
3. 血海 大腿四頭筋
4. 豊隆 長腓骨筋

あ 14-122 乳頭線上にある経穴はどれか。

1. 缺盆
2. 中府
3. 巨闕
4. 梁門

あ 14-123 東洋医学的治療原則で適切でないのはどれか。

1. 虚証に対して瀉法を行う。
2. 陰陽を調整する。
3. 証に基づいた治療をする。
4. 未病治を重視する。

あ 14-124 手根管症候群に対する局所施術で対象となる経穴はどれか。

1. 陽谿
2. 孔最
3. 大陵
4. 神門

あ 14-125 橈骨神経麻痺による障害部位への施術で適切なのはどれか。

1. 肘関節内側
2. 前腕前側
3. 前腕後側
4. 手関節掌側

あ 14-126 前腕尺側から小指にかけての痛みに対する治療で経絡の流注を考慮した場合、施術対象となる経絡はどれか。

1. 大腸経
2. 小腸経
3. 肺経
4. 心包経

あ 14-127 肩こりで僧帽筋を施術対象とする場合、局所治療穴として適切でないのはどれか。

1. 天膠
2. 天柱
3. 巨骨
4. 完骨

あ 14-128 肩関節を外旋すると天宗穴付近に痛みがみられる場合、施術対象となる罹患筋はどれか。

1. 棘下筋
2. 棘上筋
3. 大円筋
4. 肩甲下筋

あ 14-129 股関節の屈曲拘縮がありトーマステスト陽性の場合、ストレッチングの対象となる罹患筋はどれか。

1. 半膜様筋
2. 腸腰筋
3. 中殿筋
4. 大殿筋

あ 14-130 坐骨神経痛の局所施術でワレー圧痛点に相当する経穴はどれか。

1. 梁丘
2. 通里
3. 不容
4. 殷門

あ 14-131 腓骨神経麻痺の治療方針と治療法との組合せで誤っているのはどれか。

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1. 尖足予防      | 足関節 90 度固定  |
| 2. 前脛骨筋の筋力回復 | 足関節伸展（背屈）運動 |
| 3. 総腓骨神経刺激   | 陽陵泉の低周波通電   |
| 4. 後脛骨筋の緊張除去 | 下腿内側の揉捏     |

あ 14-132 スポーツ障害と局所施術の対象となる筋との組合せで誤っているのはどれか。

- |           |        |
|-----------|--------|
| 1. 野球肩    | 棘上筋    |
| 2. テニス肩   | 橈側手根伸筋 |
| 3. アキレス腱炎 | 下腿三頭筋  |
| 4. ジャンパー膝 | 大腿二頭筋  |

あ 14-133 めまいの原因疾患で全身あん摩が適切なのはどれか。

1. 脳動脈硬化症
2. 聴神経腫瘍
3. 更年期障害
4. 内耳炎

あ 14-134 気滞による月経痛に対し、施術対象となる経絡はどれか

1. 肝経
2. 心経
3. 肺経
4. 腎経

あ 14-135 パーキンソン病に対する治療で適切でないのはどれか。

1. 上下肢の関節運動
2. 筋のストレッチング
3. バランス訓練
4. 筋力増強訓練

あ 14-136 末梢性顔面神経麻痺について、中枢性と末梢性を鑑別する方法はどれか。

1. 頬を膨らませる
2. 額にしわを寄せさせる
3. 目をつぶらせる
4. 口笛を吹かせる



あ 14-137 末梢性顔面神経麻痺について、低周波電気療法で治療対象とならないのはどれか。

1. 側頭筋
2. 前頭筋
3. 眼輪筋
4. 頬筋

あ 14-138 「48歳の女性。突然、右側の前頭部から頬部にかけてピリピリとした激しい痛みが走った。明らかな原因はない。食事や洗顔で痛みが誘発される。」罹患神経はどれか。

1. 顔面神経
2. 三叉神経
3. 動眼神経
4. 舌咽神経

あ 14-139 障害されている神経の役割で誤っているのはどれか。

1. 痛覚
2. 味覚
3. 温覚
4. 触覚

あ 14-140 経絡の流注を介した施術で適切でないのはどれか。

1. 胃経
2. 大腸経
3. 三焦経
4. 心包経

あ 14-141 筋とその施術法との組合せで適切でないのはどれか。

1. 腹直筋            ろうと揉捏法
2. 広背筋            手掌揉捏法
3. 前脛骨筋        両母指揉捏法
4. 胸鎖乳突筋      きりもみ状揉捏法

あ 14-142 強擦法について正しい記述はどれか。

1. あん摩の基本手技である。
2. 軽擦法と振せん法との複合手技である。
3. 関節部に応用する手技である。
4. 鋸切状の手技がある。

あ 14-143 叩打法のうち小指尺側で叩かないのはどれか。

1. 手拳叩打法
2. 切打法
3. 空気(宿気)打法
4. 合掌打法

あ 14-144 指圧の基本圧法の中で漸増漸減圧でないのはどれか。

1. 吸圧法
2. 緩圧法
3. 通常圧法
4. 持続圧法

あ 14-145 パラフィン浴について誤っているのはどれか。

1. パラフィンの温度は 50～55 である。
2. 患部を入れたまま 10 分間温める。
3. 関節リウマチに用いる。
4. 伝導熱を利用した方法である。

あ 14-146 骨粗鬆症患者の背部への施術で骨折の危険が最も高い手技はどれか。

1. 衝圧法
2. 軽擦法
3. 振せん法
4. 揉捏法

あ 14-147 手洗いに使用する消毒剤はどれか。

1. 次亜鉛素酸ナトリウム
2. グルコル酸クロルヘキジン
3. グルタルアルデヒド
4. エタノール

あ 14-148 体性 内臓反射に基づく施術で第 7～11 胸神経支配の筋への圧迫法が適応となる症状はどれか。

1. 生理痛
2. 下痢
3. 残尿感
4. 胃部不快感

あ 14-149 筋性防御の反射弓に関与しないのはどれか。

1. 内臓求心性神経
2. 交感神経節後線維
3. 興奮性介在ニューロン
4. 体性運動神経

あ 14-150 内臓 体性反射によるのはどれか。

1. 体温調節
2. 血圧調節
3. ヘッド帯
4. 消化液の分泌